

令和7年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

ロジスティクス分野
2級 ロジスティクス管理

試験問題

(13ページ)

1. 試験時間 110分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、JIS等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題文中、次の法令名は略称で記載されています。

- ・エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律
→ 省エネルギー法
- ・物資の流通の効率化に関する法律 → 物流効率化法

問題1 企業の収益性向上に向けたロジスティクス施策に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 労災防止や交通安全の取組は、資産の有効活用という観点で収益性向上に貢献する。
- イ. 顧客サービス向上は、売上の増加という観点で収益性向上に貢献する。
- ウ. 調達におけるVMI導入は、販売管理費の低減という観点で収益性向上に貢献する。
- エ. 在庫削減は、売掛金の削減という観点で収益性向上に貢献する。
- オ. 自営転換は、販売機会損失の削減という観点で収益性向上に貢献する。

問題2 ロジスティクス戦略に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ロジスティクス戦略は、一般に中長期計画など、比較的長期の戦略として策定される。
- イ. ロジスティクス戦略は、短期間に投資回収ができる施策で定められる。
- ウ. ロジスティクス戦略に基づき、その達成に向けた施策と到達すべき数値を、中期目標として設定する。
- エ. ロジスティクス戦略では、中期目標を達成するための施策の実施スケジュールとその進捗状況を確認する。
- オ. ロジスティクス戦略管理の一環として、策定された中期目標の達成に向け、社内関連部署の他、取引先等との調整を行う。

問題3 3PL（サードパーティ・ロジスティクス）に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 輸送と保管を同一の事業者に委託する事業形態を3PLと呼ぶ。
- イ. 荷主企業が確実な業務遂行を期待するときには、アセット型の3PLに委託する必要がある。
- ウ. 荷主企業が3PLに委託をする場合には、守秘義務契約を締結後に、全ての自社情報を開示することが望ましい。
- エ. 親会社から幅広い物流業務を受託し、その成果を他企業へ活用することにより、3PL事業を行っている物流子会社がある。
- オ. 3PLに委託する最大のメリットは、荷主企業におけるロジスティクスのノウハウの社内蓄積である。

問題4 SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. SDGsは、貧困対策を目標の一つにしている。
- イ. SDGsは、国連が定めている。
- ウ. SDGsは、気候変動対策を目標の一つにしている。
- エ. SDGsが定める目標年は、2030年である。
- オ. SDGsの対象は、発展途上国である。

問題5 省エネルギー法及び同施行令に基づく特定荷主の判断基準として正しい年間総輸送量は、次のうちどれか。

- ア. 2,000万トン以上
- イ. 3,000万トン以上
- ウ. 2,000万トンキロ以上
- エ. 3,000万トンキロ以上
- オ. 5,000万トンキロ以上

問題6 物流における環境対策の取組に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 冷蔵・冷凍倉庫における冷媒の脱フロン化を推進する。
- イ. 商品の包装材の素材を、紙からプラスチックに変更する。
- ウ. 倉庫やトラックターミナルの屋根に太陽光発電装置を設置する。
- エ. 長距離輸送における鉄道・海運の利用比率を高める。
- オ. エコドライブに係る講習会等を開催し、エコドライブを推進する。

問題7 我が国の物流関連の法令に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 勤続5年を経過した有期雇用の物流センター従業員から、無期転換の申込みがあつたが、人員枠がない場合は断ることができる。
- イ. フードデリバリー（料理宅配）など、原動機付自転車や自転車で行う配送には、貨物自動車運送事業法が適用されない。
- ウ. ドライバーの労働時間管理は、拘束時間管理を行えば十分である。
- エ. トラック予約受付システムは、物流効率化法の認定対象にならない。
- オ. 標準貨物自動車運送約款では、トラックへの貨物積卸し料金の額が設定されている。

問題8 総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）における「高度物流人材の育成」に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ダブル連結トラックによって一回当たりの輸送量を増やすため、高度な運転技術を持つドライバーを養成する。
- イ. 物流DXを推進するために、物流・ロジスティクスの知識とICT技術を兼ね備えた人材を育成する。
- ウ. 大学・大学院における物流・サプライチェーンマネジメント分野を取り扱う产学連携の寄附講座を増やす。
- エ. 総合物流施策大綱の別表では、物流に関する高度な資格の取得者数について目標が示されている。
- オ. 経営情報学、経営工学や数理科学など多様な能力を備えた人材が物流分野に参画することが求められている。

問題9 中国の物流政策や動向に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 中国における国内輸送の輸送機関別分担率は、トンキロベースでは鉄道が首位である。
- イ. 中国における鉄道貨物輸送では、コンテナよりも石炭、鉄鉱石等の車扱輸送の比率が高い。
- ウ. 中国から欧州・ASEAN諸国への輸送ルートとして、鉄道の整備が進められている。
- エ. 中国では、2001年のWTO（世界貿易機関）加盟によって、物流業における外資規制の緩和が進んでいる。
- オ. 中国におけるGDPに占める物流コストは、日本やアメリカよりも高いので、中国政府は「物流業の発展に関する中長期計画」を策定して物流政策を推進している。

問題10 ロジスティクスにおけるリスクマネジメントに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 新商品投入時の売れ行きが予測と著しく乖離することによる過剰在庫や品切れのリスクについては、予めそれぞれのケースの対応方法をリスクシナリオとして定めておくことが有効である。
- イ. 従業員の伝票操作による不正出荷のリスクについては、企業の内部統制の枠組みの中で予防措置を講じることが有効である。
- ウ. 原材料価格の高騰のリスクについては、先物取引を活用することが有効である。
- エ. 保険は、事故や災害のリスクをヘッジするのに有効な方法の一つである。
- オ. 商品への不適切な化学物質混入のリスクについては、原材料の調達先を複数に分散することが有効である。

問題11 キャッシュギャップ（又は、キャッシュ・コンバージョン・サイクル）に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 在庫の圧縮は、キャッシュギャップを改善（減少）させる。
- イ. 買掛金回転日数の短縮は、キャッシュギャップを悪化（増加）させる。
- ウ. 売掛金回転日数の短縮は、キャッシュギャップを改善（減少）させる。
- エ. キャッシュギャップは、日数で表される。
- オ. キャッシュギャップがマイナスとなることはない。

問題12 ロジスティクス監査に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ロジスティクス監査の役割として、ロジスティクス業務が企業の目的を満たすように正しく行われているかどうかの検証、報告がある。
- イ. ロジスティクス監査は、ロジスティクスに関する経営成績を対象とするため、財務諸表監査に該当する。
- ウ. ロジスティクス監査は、外部の第三者により実施されるため、外部監査に該当する。
- エ. ロジスティクス監査では正すべき点が見つかった場合、監査担当者が主体となってその是正を行う必要がある。
- オ. 荷主企業が自社でロジスティクス業務を行っている場合、物流事業者に委託している場合以上にロジスティクス監査が重要になる。

問題13 荷主企業における物流サービスに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 顧客が期待する物流サービスは、費用に関わらず提供しなければならない。
- イ. 自社の物流サービスを、他社の物流サービスと比較する場合に使用される手法の一つとして、ベンチマーкиングがある。
- ウ. 物流サービスレベルの設定と管理の責任は、経理部門にある。
- エ. 物流ABC（活動基準原価計算）とは、物流サービスレベルを把握するための手法のことである。
- オ. 物流サービスレベルを向上させれば、物流コストは減少する。

問題14 荷主企業の物流部門が、新たな物流サービスレベルを実行する際の対応として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 配送トラックの積載率を高めるために、最低注文ロット数を引き上げることを顧客に打診し、承諾を得た。
- イ. 出荷検品の精度を向上させるため、物流センターの従業員全員に検品機器の使用方法の教育を行った。
- ウ. 新たな物流サービスレベルについて、物流部門の全員に加え、関連部門にも伝え、徹底を図った。
- エ. 新たな物流サービスレベルの実施状況を評価するため、実施後のサービス実態について、顧客に聞き取り調査を行った。
- オ. 新たな物流サービスレベルを実施した結果、コストが従前より高くなつたので、物流部門の判断で元の物流サービスレベルに戻した。

問題15 物流の品質管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流品質の評価の一つとして、事前に顧客に約束した物流サービスレベルと実際に顧客に提供している物流サービスレベルを比較する方法がある。
- イ. 物流品質の維持・向上には、物流部門だけでなく、開発や生産など社内の複数部門と共同して取り組む必要がある。
- ウ. 物流品質を管理するためには、物流サービスを提供する作業者に教育を行えばよい。
- エ. 物流品質の管理には、QC 7つ道具などを活用した小集団による改善活動も有効である。
- オ. 品質管理を推進して顧客満足を向上する手段の一つとして、ISO9000シリーズの認証取得がある。

問題16 物流拠点を移転する場合、物流システムの事前の稼働判断に関する項目として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. WMS（倉庫管理システム）、TMS（輸配送管理システム）等の物流情報システムの稼働の確認
- イ. 作業者の教育訓練完了及び作業の円滑性の検証
- ウ. 輸配送手段の確保とドライバー教育の完了及び輸配送の円滑性の検証
- エ. 移転前センターにおける実地棚卸の完了
- オ. トラブル発生時のバックアップ体制の確立

問題17 物流事業者への委託料金体系とその特徴に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. リソース・ベース型料金体系は、コストの透明性が高い。
- イ. 料金表型料金体系は、料金表が決定した後は荷主企業の物流業務改善等は不要である。
- ウ. アクティビティ・ベース料金体系においては、業務改善によるコストメリットを可視化できる。
- エ. 管理型料金体系は、料金体系がシンプルで、流通業の物流センターでは現在もよく採用されている料金設定方法である。
- オ. 管理型料金体系においては、荷主企業が物流事業者の改善努力を引き出しやすい。

問題18 物流センターの業務改善として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流品質の向上と生産性向上とを同時に改善し得る対策の一つは「情報システムの改善」である。
- イ. 物流生産性向上のためには、作業フローの分析が重要であり、ボトルネックとなっている工程を改善する必要がある。
- ウ. 曜日別・時間帯別にセンター内作業者を適正配置することは、人件費抑制には欠かせない。
- エ. 物流センターでの取扱い物量の波動を吸収するには、パートタイム労働者やアルバイトよりも派遣社員の増減で調整することが収益上望ましい。
- オ. センター内作業者の確保は今後益々困難になることが想定されるため、自動化・機械化の検討は喫緊の課題である。

問題19 令和7年4月1日に一部施行された物流効率化法における基本方針のポイントとして不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラックドライバーの運送・荷役等の効率化を推進し、令和10年度までに、定められている目標の達成を目指す。
- イ. トラックドライバーの運送・荷役等の効率化の推進に関する施策を実施する。
- ウ. トラックドライバーの運送・荷役等の効率化に関し荷主・物流事業者等が措置を講ずる。
- エ. 集荷・配達に係るトラックドライバーへの負荷の低減に資する事業者の活動に関する国民の理解を増進する。
- オ. 一定規模以上の事業者（荷主、物流事業者）に対し、物流効率化のために取り組むべき措置について努力義務を課す。

問題20 在庫補充方式の採用と運用に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 1万品目を扱っているA卸売会社は、不定期不定量で個数単位での在庫補充をしている。
- イ. B製作所では、部品や材料の調達に当たって、品目ごとに、補充間隔を設定している。
- ウ. 受注生産しているC機械メーカーは、大物部品からネジ・ナット等の小物部品に至るまで、必要な数量だけ補充している。
- エ. D電機メーカーでは、比較的高価で調達リードタイムが1カ月程度と長い電子部品について、毎週金曜日に正味所要量を計算して補充手配を行い、他の汎用的な部品については、不定期定量補充方式を採用している。
- オ. 東南アジアから小型家電を輸入しているE商事では、在庫管理の手間を省くために、ダブルビン方式を採用している。

問題21 メーカーの在庫削減策に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. あまり売れない商品に着目し、販売予測の精度を高めることが効果的である。
- イ. 販売会社、代理店等にメーカー名義の在庫を置く場合には、それぞれ均等に持つようとする。
- ウ. 流通過程の在庫を減らす有力な方法の一つとして、在庫の階層と拠点数を減らす商物分離がある。
- エ. メーカーから小売店への配送は、できるだけまとめて行う。
- オ. 生産をできるだけまとめて行うことにより、生産コストの低減も同時に実現することができる。

問題22 販売計画に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 売上高予測の精度を向上させるには、販売計画の精度を向上させる必要がある。
- イ. 販売計画は、全ての出荷実績に基づく需要予測を用いて行う。
- ウ. 製造業に製品／商品を納入するサプライヤーの販売計画は、需要予測手法を活用して予測精度を高める必要がある。
- エ. 消費財の販売計画は、特売や新製品などについて移動平均法を用いて変動をなした後に予測する。
- オ. 販売計画立案においては、工場の生産キャパシティによる制約は考慮しない。

問題23 需要予測の精度向上に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 新しいジャンルの製品の場合は、需要先・営業の販売計画、マーケットリサーチなどから予測する。
- イ. 予測の精度を見極めながら、補充方式、安全在庫水準を定期的に見直し、在庫を調整する。
- ウ. 販売促進策の内容を早期に把握し、過去の類似商品や類似する販売促進策の販売傾向、他社の動向等を需要予測に活用する。
- エ. パレート（A B C）分析の結果に基づくAランク商品の需要予測には、過去の時系列実績を基に回帰分析を使う。
- オ. パレート（A B C）分析の結果に基づくBランク商品には、商品ライフサイクルの衰退期・成長期に入った商品が混在している場合もあるので、需要予測には注意する必要がある。

問題24 物流拠点の物件や立地の選定に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流拠点の物件や立地の選定において、固定費の変動費化の検討は重要である。
- イ. 新しい物流拠点へは、旧拠点で使用していた棚等の保管機器はそのまま移動して投資を極力抑える。
- ウ. 荷主の専用センターとして物流会社が倉庫物件を賃借する場合には、契約年数の短い賃貸借倉庫物件を選ぶことが望ましい。
- エ. 物流拠点の立地選定のためには、輸送距離及び輸送量のデータとともに、「納品条件」を充分に分析することが必要である。
- オ. 物流拠点の物件や立地選定においては、近隣への騒音、人員を要する場合はパート雇用の容易さ、通勤者の交通手段の利便性等も重要となる。

問題25 鉄道や海運へのモーダルシフトに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラック長距離輸送を鉄道輸送に変更すれば、輸送コストは確実に低減する。
- イ. モーダルシフトは、概ね500km以上の長距離輸送でなければ効果が見いだせない。
- ウ. 国土交通省は、「モーダルシフト」について、物流効率化法等に基づき支援を行っている。
- エ. 現状では、まだ貨物駅・港湾での積替え・待機時間等の課題が解決されていない。
- オ. 1トンキロ当たりの輸送機関別二酸化炭素排出量は、内航海運の方が鉄道よりも少ない。

問題26 物流原価計算に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 直接原価計算とは、固定費を変動費に変えて原価に含める計算方法である。
- イ. 物流における全部原価計算とは、他部門と共用しているリソースの費用全額を、物流原価に算入するというものである。
- ウ. 荷主企業における物流原価は、売上原価として扱われる。
- エ. 限界利益とは、売上高から全部原価計算による原価を差し引いたものである。
- オ. 物流外部委託によって、自社で保有していた倉庫・人員等を外部化することは、物流原価を直接原価計算で把握しやすくするという点で、原価計算は容易化される。

問題27 当初予算では出荷予定数10,000ケース、1ケース当たりの輸送費は500円であったが、実績は9,000ケースで、1ケース当たりの輸送費は700円となった場合の予算と実績の差異に関する記述として、適切なものは次のうちどれか。

- ア. 物量差異は、マイナス50万円であった。
- イ. 単価差異は、プラス150万円であった。
- ウ. 混合差異は、プラス30万円であった。
- エ. 輸送費の実績額は、予算額の枠内に収めることができた。
- オ. 物量の減少は、主に物流部門の取組の成果だといえる。

問題28 自社所有の倉庫で自社の社員が「ケースピッキング、ピースピッキング、梱包作業、出荷検品」などの作業を実施しているときの、物流A B Cに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. リソースコストの種類としては、「ケースピッキング」「ピースピッキング」などが挙げられる。
- イ. アクティビティの種類としては、社員の人工費、倉庫スペースコストなどが挙げられる。
- ウ. アクティビティ別のリソース使用割合を把握するため、ピースピッキングに利用している倉庫面積を計測するといった作業が必要である。
- エ. 社員の人工費といったアクティビティ単価を把握するために、給与台帳等のデータを入手することが必要である。
- オ. 「梱包作業」などのリソースコストを算定するには、当該作業量である「梱包ケース数」等の数量把握が必要である。

問題29 期末の棚卸資産の評価方法（簿価の求め方）に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

なお、ここでいう棚卸資産は、中小企業に該当しない企業が通常の販売目的で保有する商品・製品に限るものとする。

- ア. 帳簿上の価格を常に正しいものとして簿価とする。
- イ. 販売可能価格から逆算した在庫の価格を簿価とする。
- ウ. 現時点と同一の外部から仕入れた場合の価格を簿価とする。
- エ. 帳簿上の価格と時価のうち、安い方を簿価とする。
- オ. 現時点と同一の外部で製造する場合の製造原価を簿価とする。

問題30 投資を伴う物流採算に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 設備に投資した資金は、減価償却費と当期純利益によって回収される。
- イ. 物流コスト抑制のための投資が多いのは、売上を伸ばすよりも費用を抑制する方が、一般的には利益を生み出しやすいからである。
- ウ. 投資を伴う採算分析としては、「現在価値法」「ROI（投資利益率）法」等がある。
- エ. 経済変化を考慮すると、資金の回収期間は、法定耐用年数や実用耐用年数より短い期間に設定することが望ましい。
- オ. 投資キャッシュフローを良くするために、金融機関からの借入時の担保になるよう、自社所有の配送センターを建設することが望ましい。

問題31 安全性確保のために厳重な管理が必要な医療用医薬品において、バーコードを活用する意義と役割に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 医療現場では、患者への投薬ミス等による事故を防止するため、投薬時点でのバーコードの読み取りにより、内容物の再確認を行っている。
- イ. 紙媒体での管理では、数字の「0（ゼロ）」や「1（いち）」と文字の「O（オー）」や「I（アイ）」の見間違が医療ミスを起こす場合があるので、バーコードを利用して目視確認ミスを起こさないようにしている。
- ウ. 医薬・医療の分野でのトレーサビリティに、「GS1コンポジット」を使用することとなった。
- エ. 医薬品のうち、液体、錠剤等の小さいものには、保管棚などにバーコードを表示して、利用の都度、バーコードを読み取るようにしている。
- オ. 医薬品流通においては、バーコードの表示場所や貼付場所の標準化が進められている。

問題32 情報通信技術に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. インターネットVPNを利用すると、利用しないよりもデータ伝送の速達性を高められる。
- イ. インターネットとは、TCP/IPという通信技術を用いる情報伝達手段である。
- ウ. 企業情報ポータルとは、企業内にある別々のシステムの情報を、利用者のパソコン画面上で一元的に検索できるようにしたシステムである。
- エ. IoTとは、様々なモノに通信機能をもたせ、インターネットを利用して情報を発信、相互に通信することにより、様々な場面で応用しようとするものである。
- オ. ISDN回線もしくは電話回線を利用したEDIは、全てインターネットEDIに移行する必要がある。

問題33 ロジスティクス情報システムの概要に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ロジスティクス情報システムとは、ICT（情報通信技術）を活用して、各種の物流業務を情報システム化したものである。
- イ. 物流現場にICTを活用し、作業毎の開始・終了時刻・作業内容をデータベースに登録・集計することによって、作業進捗の可視化が実現する。
- ウ. 自動認識技術は、物流のトレーサビリティを実現するツールの一つである。
- エ. ロジスティクス情報システムに障害が発生した場合、素早く回復させるためには、システムが稼動するサーバーを、現場施設内に設置する必要がある。
- オ. 自動認識技術を活用したモノや容器の自動識別、コンピュータによる管理業務の自動化等により、物流の生産性向上が期待できる。

問題34 情報システムを活用した入出庫処理の精度向上等に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 電話、FAXによる受注処理は、オーダーエントリー時に、商品コードや発注量などの誤りの有無を確認する。
- イ. 出荷確定後、納品情報は納入先へASN（事前出荷案内）として送信することができる。
- ウ. インターネットによる受注処理の普及は、これまでの専用回線を用いたEDIによる受注と比べて、通信に要する時間及び通信コストの低減に寄与している。
- エ. ネット通販の様な個人向け受注システムでは、欠品情報及び代替商品情報、欠品商品の入荷予定情報の利用者への通知により、顧客サービスの向上が図れる。
- オ. SCMラベルが付いている商品の入荷は、入荷前に作業準備や格納場所の決定ができる。

問題35 物流拠点の在庫管理システムの管理対象として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 一時的な外部倉庫の在庫
- イ. 調達先のVMI対象品の在庫
- ウ. 保管ロケーションに格納される前の入庫商品
- エ. 出荷引当済み商品
- オ. 納入先から返品された商品

問題36 倉庫管理システム（WMS）を利用した物流センター業務についての記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 製造日や製造ロットが明確であれば、WMSへの入庫日登録は不要である。
- イ. WMSの拡張機能であるYMS（ヤード管理システム）の導入により、センター内作業者の生産性向上が可能になる。
- ウ. 一般的に固定ロケーション管理の方が、WMSを利用したフリーロケーション管理よりも保管効率は低くなる。
- エ. 固定ロケーション管理であれば、格納時にWMSへの格納確定は不要である。
- オ. WMSによる出庫時の重量検品は、色、サイズの違いも高精度で対応できる。

問題37 GPS、車速センサー等を備えた車載機器を用いた輸送管理システムを利用する際の留意点に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. GPSのデータだけでは、後の解析の際に、何の原因による停車か判別できないので、停車理由はドライバーが別途入力しておくことが望ましい。
- イ. GPSにより計算される緯度経度データは、どの会社の電子地図ソフトを用いても走行実績の解析などに活用することができる。
- ウ. 速度データには、GPSから得られるものと車速センサーから得られるものがあり、計測精度に違いがある。
- エ. 燃料消費量のデータには、車速やエンジン回転数を基にした推計値と、エンジン制御系のデータなどがある。
- オ. 車載機器での手入力データは人為的なミスが生じやすいので、計画と実績の照合作業においては、論理エラーのチェックが不可欠である。

問題38 国際海運における24時間ルールに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 船舶入港の24時間前までに、輸入通関申請を行うこと。
- イ. 出航の24時間前までに、貨物に爆弾や生物化学兵器が紛れ込んでいないかを検査すること。
- ウ. 船舶出航又は積込みの24時間前までに、輸入国に積荷の情報を電子的に申告すること。
- エ. CY（コンテナヤード）搬入の24時間前までに、輸出通関申請を行うこと。
- オ. 海上コンテナで輸入する貨物について、入港の24時間前までに、輸入通関申請を行うこと。

問題39 NACCS（輸出入・港湾関連情報処理システム）に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 輸出入通関手続は、NACCSを利用しなくても行うことができる。
- イ. 動植物検疫手続は、NACCSを利用して行うことができる。
- ウ. 厚生労働省検疫所に対する食品等の輸入手続は、NACCSを利用して行うことができる。
- エ. 外国為替及び外国貿易法に基づく行政手続は、NACCSを利用して行うことができる。
- オ. NACCSによる輸出入申告は、通関士でなくとも通関業者の従業員であれば行うことができる。

問題40 国際貨物の貨物追跡に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 国際宅配便の貨物追跡は、国際宅配便事業者の提供する貨物追跡システムを利用する。
- イ. 発港、着港で別のフォワーダーを使用する場合は、発港側で委託したフォワーダーの貨物追跡システムで最終到着地までの貨物の輸送状況を確認することが可能である。
- ウ. 船舶輸送でFCLの場合は、船社の貨物追跡システムを利用することができる。
- エ. 混載航空貨物の場合は、フォワーダーの貨物追跡システムを利用するのが一般的である。
- オ. 船舶輸送でLCLの場合は、フォワーダーの貨物追跡システムを利用するのが一般的である。